

## 市長1期目を振り返って

「元気な泉大津をつくる」を合言葉に平成29年1月に市長に就任し、山積する課題を前に、いかにして解決の道筋をつくるか、むしろどうやってピンチをチャンスに転換させるかを考えてきました。1つ1つの判断が将来に及ぼす影響を常に意識して、様々な決断や行動をしています。

この間、平成30年の台風21号や新型コロナウイルス感染症など大きな危機もありましたが、そのような状況の中で、泉大津市民の温もりや結束力、まちの底力を感じる場面が多くありました。

泉大津は立地的に高い可能性を秘めている上、育まれてきた伝統文化や産業があり、さらにこれからの時代に花開きそうな新たな可能性の芽が次々に生まれています。官民が力をあわせて市民と共に創るまちづくりを進め、市民の皆様の暮らしに笑顔が一つでも多く生まれるよう、引き続き全身全霊で取り組んで参ります。



## 泉大津市長 南出けんいち

<活動通信>令和2年10月発行 南出けんいち後援会事務局 泉大津市助松町2-6-21

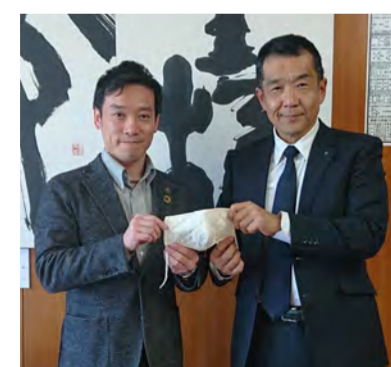
## コロナ禍での動き

市民の命と暮らしを守りながら、子どもたちの学びの保障、地域経済の応援、今後に対する備え等、対策に終わりはありません。官民連携、市民共創で泉大津ならではの取り組みが生まれたりと、まちの強みや可能性も感じています。コロナとの共存社会に向けて、免疫力、自己防衛体力の強化等、本質的な取り組みも進めていきたいと思います。



### 緊急経済対策 レシート大作戦

約11億円強の経済効果が生まれました。商工会議所青年部による企画を土台に、様々な方々の知恵と汗が加わり、市民の皆様参加のおかげで、泉大津市内の経済が確実に動きました。心から感謝申し上げます。



### 「繊維のまち」の強みを生かす！ マスク・プロジェクト

商工会議所と連携し、マスク不足解消の一助にと地元企業や小売店の協力のもと、泉大津産マスクを製造販売。全国から注目を集めました。『繊維のまち』だからこそできた取り組みです。泉大津市の新たな産業の芽が生まれました。



### 休校でも学びを止めない 自学自習アプリの無償提供（全国初!）

長期休校期間中のオンライン学習支援。民間企業との協働により泉大津市独自の対策を迅速に実施することができました。学校教育と家庭学習が円滑に行えるようにこの取り組みを軸にさらなる環境整備を進めており、全児童生徒へのタブレット配布は令和2年末までに完了予定です。



大阪880万人訓練 大阪府・吉村知事と意見交換

### 実施した支援策

- 国民一人当たり10万円の給付
- 水道料金の基本料金を半年間無償化
- 全世帯へ無償ごみ袋の配布
- 就学前施設、小中学校において給食費3か月無償化
- 令和3年3月31日生まれまでの新生児へ10万円給付
- 事業者への休業要請支援金
- 介護サービス事業所、障がい福祉サービス事業所への支援金給付
- 高齢者インフルエンザワクチンの無償化
- 子どもインフルエンザワクチンの一部助成
- 情報弱者対策として70歳以上高齢者世帯へのラジオ配布
- インターネットを使わない高齢者に、テレビを使って行政情報を届けるための官民連携による実証実験
- 官民連携による飲食テイクアウト応援や出張こども食堂 他、多数

## 財政を着実に改善

子どもにつけまわさない行財政改革。財政を着実に改善しながら、いざという時の基金(貯金)を大幅増加。まだまだ厳しい状況ですが、健全化に向けて着実に立て直しを進めています。業務や事業の見直し等によって歳出を削減すると共に、知恵と工夫で歳入も増やしてきました。市長就任からの3年間で財政を着実に改善しながら、いざという時のための基金も増やすことができました。

しかし、これで安泰ではありません。これから、古くなった公共施設の建て替えや統廃合等が続きます。さらに、自然災害やコロナのような新たな脅威に対する備えも必要になります。少子高齢化、人口減少も進行します。それらを視野に、泉大津市の将来を見据えた事業を進めなければなりません。次世代に責任をもって繋ぐため、大きな決断が続きます。

### 財政健全化の指標が大幅改善

**UP!**

- ・ 就任から3年間で(平成28年度比、令和元年度決算)、財政健全化指標は大幅に改善
- ・ 一般会計、全会計トータルの実質収支は黒字を堅持
- ・ ふるさと納税の寄付額が1億3700万円から4億6200万円に
- ・ 貯金である基金は約36億円から69億円に(内、財政調整基金11億→30億円に)
- ・ 毎年約1億5千万円を借入金返済に投じていた駐車場事業特別会計の積算を完了

**DOWN!**

- ・ 実質公債費比率16.5%→10.4%
- ・ 将来負担比率118.4%→47.9%
- ・ 地方債残高(借金)を減少 640億→571億円
- ・ 公共施設での電気料金は年間約3千万円削減の実現
- ・ 土地開発公社の健全化のために、毎年3億円の財源を捻出して健全化を図り、精算できる目途がようやくみえてきました。

## 現在進行形のプロジェクト

### 泉大津駅前新図書館の整備工事がスタート

令和3年度のオープンを目指して、泉大津駅前商業施設(アルザ泉大津商業棟4階)において、新図書館の整備工事が始まりました。好立地で、座席数は500席を超え、開書図書は約16万冊の予定(現図書館約50席、開書図書7万冊弱)です。図書の充実はもとより、学習空間やネット環境、セミナールーム、地域製品のPR拠点等も整備されます。読書や学習に加え、打ち合わせやセミナー、イベント等、あらゆる人が集い、学び、つながり交流し、色んな取り組みや価値が創造される、新たなまちづくり拠点が生まれます。市民の皆さんと価値ある空間へと育てていきたいと思います。



### みんなで作る未来の公園(市民会館等跡地活用)

市民会館等跡地(4ヘクタール)は長年、土地開発公社が多くの土地を保有したまま、財源不足から買い戻すことができず一体的な活用がされない状況にありましたが、この場所の利活用に向けて、市民参加型で公園の設計作業が始まりました。豊かな芝生と森の中で多くの市民の皆さんが集い、楽しみ、憩える空間を創造します。9月27日に開催した第1回目の市民ワークショップには子どもから高齢者まで大勢の参加があり、「ここで何する?何したい?」をテーマに活発な意見やアイデアがたくさん出されました。令和5年度のオープンを目指して、魅力あふれる泉大津市のシンボル空間を皆さんと創造していきます。

### 安心して医療が受けられる持続可能な医療体制への大改革

新型コロナによってより厳しい経営状況となった泉大津市立病院は、令和元年度決算で約5億円(単年度)の赤字を計上。建設時の多額の負債が重くのしかかり、集中治療室や高度治療室がなく、市内搬送患者の救急受け入れ率は約14%と低迷。感染症対策の仕様にもなっていません。これらの課題に加え、同じ医療圏での競合の出現や、人口減少下において医療体制をどのようにして存続させるかも考えねばなりません。持続可能な医療体制、医療レベルやサービスの向上、市の財政上の健全な経営などの観点から、社会医療法人生長会府中病院と連携した地域医療構想プランを推進しています。いざという時に市民の命を守るための高度急性期病院(公設民営)を新設し、現市立病院で周産期・小児医療を、府中病院で回復期医療や地域包括ケアを担う予定となっています。医療の持続可能性、品質、経営のバランスを総合的に考えて最善を尽くし、作り上げたプランです。現在、市議会で特別委員会を設置し協議がはじまりました。令和6年度の開院を目指しています。



## 行財政改革

人のやる気と能力が市民生活と泉大津の未来を左右するとの想いで、職員の士気高め、能力や持ち味を引き出し、仕事の質を高めることを大切にしてきました。人口が同規模の他市に比べ正職員数が3割少ない中で、泉大津市役所は新たなことにチャレンジしています。

### 他の実績

- ・市長給与20%と退職金を40%カット(4年間で約1800万円を捻出)し、人材育成事業を強化
- ・情報発信の強化。泉大津市公式LINE登録率が大阪府下1位に
- ・手続きの利便性向上(住民票等のコンビニ交付、全国初のバーチャル市役所総合案内)

## 新規創業・雇用創出

### 50社を超える新たな創業 約500名の新たな雇用

市長就任以降、令和2年8月末までにロボットセンターや日本語学校をはじめ50を超える新規創業と455名の新たな雇用(雇用保険加入者)が生まれました。



- ・シティプロモーションでメディア出演多数 (NHK朝の連続ドラマ「まんぶく」の舞台地に)
- ・ふるさと納税の産品増でまちをPR (137万円→462万円)
- ・泉大津市役所の業務改革が全国モデルに

## 防災・安全安心

新たな脅威は必ずやってくる。備えに終わりはない。市役所での対策と共に、市民一人一人の災害に対する備えや意識を高められるよう、様々な取り組みや情報発信をしています。人と人のつながりや、地域力を育みながら、官民連携した新たな試みにもチャレンジします。



### 他の実績

- ・新消防庁舎オープン
- ・消防団屯所整備
- ・情報弱者対策をふまえた災害時の情報発信
- ・市町村広域災害ネットワークや全国青年市長会との連携による災害時の相互応援体制の強化
- ・平成30年9月台風21号発生時、地域や市をあげて全力対応・FM泉大津との協定による防災時等の情報発信・各種避難訓練の強化
- ・大阪北部地震を教訓にブロック塀を大規模更新

## 防災訓練

### 民間企業との連携による 臨時避難所での訓練実施

新たに感染症対策が生じたことから避難所の確保が急務となり、民間企業4社と臨時避難所協定を締結。先進的な事例として吉村大阪府知事が避難訓練と視察に来られ、大阪のモデルとして広めていきたいと評価をいただきました。



## 教育・子育て

教育への投資が長年少なかった泉大津市。教育長をはじめ教育委員会と議論を活発に行い、教育への投資を大きく増やしました。泉大津で教育を受けた子どもたちが、将来泉大津で子育てをしたいと思うようなまちへ。これを合言葉に次世代への投資を大切にしています。



### 他の実績

- ・全小学校体育館に自家発電装置付きエアコン(2020年度中完了予定)
- ・先端教育の機会づくり(グローバル人材教育・ビジョントレーニング・プログラミング・右脳開発)
- ・まちくるみ図書館を目指して、小学校図書館の地域開放と図書増加
- ・えびず認定こども園開設とこども園3園の園庭芝生化
- ・就学前施設の再編計画を策定
- ・子ども家庭総合支援拠点(2020年中)を設置し、専門的な相談体制を強化

## 中学校給食

### 子どもたちに 美味しい給食を実現

令和元年度2学期から全児童の中学校給食を開始しました。医食同源、身土不二を理念に、就学前から中学校卒業まで、この後さらに食育に力を入れていきます。



## 健康づくり 地域共生

新型コロナウイルスの感染拡大は個人の行動や社会に大きな影響を及ぼし、健康の大切さを改めて実感しました。

自分で自分の健康を整える(自分の健康状態を把握し、自分に合ったケア方法を選択できる)ための環境づくりや、支え合いの仕組みづくりを官民連携・市民共創で進めています。



### 他の実績

- ・モフ草履づくりで、生きがいと小商いの創造と健康推進
- ・足もとの健康を科学でサポートする「マイファットステーション」開設
- ・市民参加型フードバンク(寄贈された食品を困窮世帯等に無償提供する活動)による新たな取組み
- ・市内スポーツ施設を民間運営に(設備リニューアル・企画力アップ)

## 予防・未病

### あしゆびプロジェクト

民間ノウハウや専門知識によって、冷え性や痛み、高齢者の歩行不安が解消されたり、子どもの姿勢がよくなる、足が速くなるという事例がたくさん生まれています。



- ・施策を強化し、こども食堂の拠点が大幅に増加
- ・子ども医療費助成を中学3年生まで引き上げ
- ・認知症サポーター登録者数の増(6268人→9433人)
- ・認知症カフェの拠点数増(2か所→6か所)

## 官民連携によるまちづくり

### 公園整備を大きく推進

「緑や公園が少ない」という意見が多く寄せられます。緑と花を増やして50年・100年後には緑豊かなまちとなるよう、みどりのマスタープランや公園マスタープランを策定し、放置されてきた公園整備を大きく推進。憩いやコミュニティが生まれ楽しめる場づくりを目指します。



## テクノロジー×市民活動

未活用空間をどう生かすか。地域や市民が抱える課題をいかに解決するか。人が本来持っている能力をいかに引き出すか。こうした問いに対して、持ち前の全国ネットワークを駆使し、官民連携・市民共創で解決策を生み出すまちづくりを、先駆開拓の精神で進めています。



### 他の実績

- ・あしゆびプロジェクトで子どもの運動能力が向上
- ・ペリエリアで初の海釣り体験会を開催
- ・大津川河川敷や市内自転車道の整備
- ・なぎさ公園(ヨットハーバー隣)でバーベキューサイト開設
- ・テレビを使って市役所の情報を高齢者に届ける実証実験
- ・南海泉大津駅高架下N.KLASSに続き、モントパーク、オズルーフをオープン
- ・ごみ拾いアプリPIRIKAを使った清掃活動促進(のべ1千人がごみ拾いに参加、拾われたごみ125万個)
- ・緑を守り育む取り組み支援や施設(台風21号被害を受けたこ神木プロジェクト、松ノ浜グリーンフェス等)
- ・潜在的身体機能を引き出す!マイファットステーションでの市民モニターとの実験

## 民間活力

### 電鉄高架下空間活用

マルシェや夜市、ヨガや読み聞かせなど様々な活動やイベントが市民や事業者の皆さんによって定期的開催されるようになりました。駅前空間の活用を促し、活動の輪を広げ企業誘致にも繋げていきます。



# 2期目に向けて

この約4年を振り返ると、本当にたくさんの方々の活動や想いに支えられ励まされ、全力で邁進してきました。

見守り、声掛け、支え合い、清掃活動、緑化、地域自治、まちの活性化、防災等、思いやりや使命感をもって陰に日向に活動してくださっているすべての皆様にご心から感謝を申し上げます。

自分たちのまちは自分たちでつくる、市民の想いと行動の数は、まちの大きな原動力です。この数年、その輪が着実に広がってきたことを実感しています。

今日も、身近な誰かのために、まちのために、行動してくださっている方がたくさんいます。気づいた人が「有り難う」と声に出して感謝を伝える、そして、感謝を感じたら、「その恩を誰かに送る」、一人一人のそのような小さな行動の積み重ねが、安心感やまちへの愛着、地域の絆づくりにつながると感じています。

これからも、暮らしの中に、笑顔がたくさん生まれるまちづくりを市民の皆さんと一緒に手掛けていきたいと思っています



南出 賢一  
みなみでけんいち

1979年 泉大津市生まれ。  
上條小学校、小津中学校、浪速高校、関西学院大学商学部卒。  
(株)ニチロ、(有)南出製粉所を経て、2007年・2011年の泉大津市議会議員選挙においてトップ当選、2015年は無投票により再選し市議3期を務める。  
2016年12月泉大津市長選で当選。

